

9. 大崎八幡宮と瑞巖寺

1 大崎八幡宮



祭神：八幡三神（応神天皇、仲哀天皇、神功皇后）

本地仏：阿弥陀如来

別当寺：龍寶寺（一門格）

慶長9年（1604）建立開始 慶長12年（1607）8月12日鎮座

縁起：平安時代に坂上田村麻呂が豊前の宇佐八幡宮を勧請し、胆沢に鎮守府八幡宮を創建。それを室町時代に大崎氏が田尻に遷宮。天正末期の大崎氏滅亡後、政宗公が岩出山城内に小祠を築き祀る。仙台開府の際に、岩出山城内の八幡社と、米沢時代から伊達家が祀っていた成島八幡宮を共に祀ったのが大崎八幡宮。

造営：大工棟梁（工匠）梅村三十郎頼次（彦左衛門次男）

刑部左衛門国次（左甚五郎？）

画師（画工）狩野（佐久間）左京

明治36年（1903）重要文化財 昭和27年（1952）国宝指定

文化財 本殿・拝殿・石の間：国宝、長床：重要文化財

社務所・旧宮司宿舎・神馬舎：登録有形文化財



拝殿將軍の間「唐獅子図」



石の間格天井「草花葉草図」



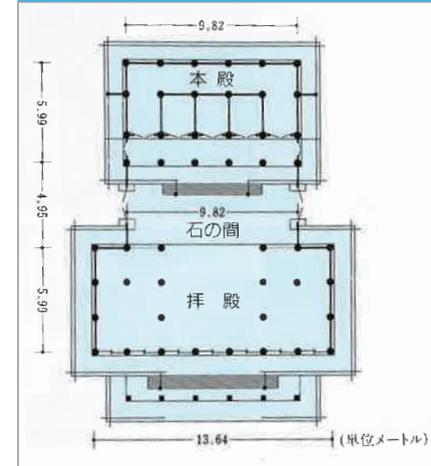
本殿内陣中御前「山水図」

【No.09】

2021年6月23日

支倉ないと
ONLINE

権現造の社殿としては現存最古の一つ



- ・権現造：入母屋造の本殿と拝殿を、石の間（相の間）でつなぎ一体化した建築様式。のちに日光東照宮（家康公＝東照大権現）の社殿に用いられたため権現造という（完成は寛永13年（1636））
- ・権現造は北野天満宮がはじめとされ、慶長4年（1599）に豊国廟でも採用

特徴：外観・拝殿・石の間は、黒漆塗りの柱、極彩色の組物や彫刻、唐獅子の壁画、大虹梁の龍に波図、格天井の草花葉草図など絢爛豪華な装飾が施されている。当時の最先端の流行である桃山様式・桃山文化の受容。

一方、本殿内陣には壁面を胡粉で白塗りした上に墨絵で山水画などが描かれており、高い精神世界を感じさせる

9. 大崎八幡宮と瑞巖寺

2 瑞巖寺 (松島青龍山瑞巖円福禅寺)



臨済宗妙心寺派

三代開山：法身性西禅師

雲居希膺禅師

洞水東初禅師

沿革：平安時代に慈覚大師円仁により創建されたと伝わる天台宗の延福寺を前身とする。鎌倉時代に執権北条時頼が、法身禅師を開山として、臨済宗建長寺派として円福寺を創建。室町時代には「諸山」→「関東十刹」に数えられる。16世紀末に臨済宗妙心寺派に。

慶長9年(1604)8月15日 政宗公は自ら松島に赴き、瑞巖寺の縄張りを行う。用材は紀州熊野から檜などを海運で運ぶも途中16艘のうち10艘が遭難。

慶長14年(1609)3月26日 本堂完成。

元和6～8年(1622～24) 本堂内の障壁画制作。

昭和28年(1953) 国宝指定

造営：梅村彦左衛門家次一門、鶴刑部左衛門国次ら名工130名
画工 狩野左京、長谷川等胤、吉備幸益

文化財：本堂(御成玄関付属)・庫裏及び廊下：国宝

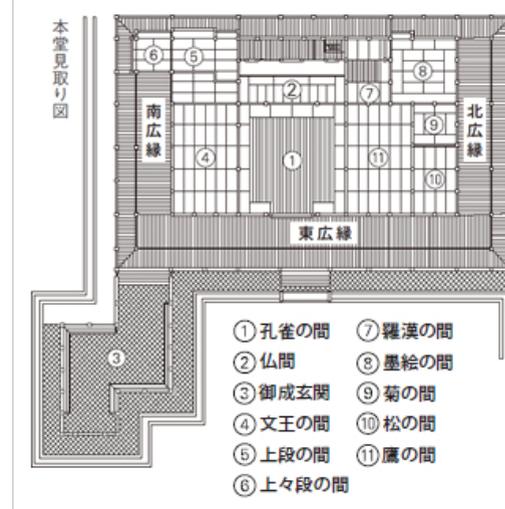
御成門・中門・五大堂・本堂障壁画など：重要文化財

【No.09】

2021年6月23日

支倉ないと
ONLINE

「釘鏝に至るまで上より陸地に落ちたるを又拾い上げぬ様に」



- ・ 本堂は10室で構成
- ・ 中心となるのは室中孔雀の間
法要などが営まれる
- ・ 仏間にはかつては政宗公木像
が安置(慶安5年(1652)安置)
- ・ 創建当初は障壁画がなかった?
- ・ 各部屋にはその用途に応じて
障壁画が描かれている



政宗公御位牌

室中孔雀の間(①)：3面に冬春秋の季節と孔雀

仏間(②)：壇の下は唐獅子、襖の内側は桜図

文王の間(④)：文王を政宗公、太公望を虎哉宗乙
禅師に見立てている

上段の間(⑤)：梅の高潔、竹の清爽、牡丹の富貴

礼の間(鷹の間)(⑪)：武士の戒めを描く



室中孔雀の間



文王の間、上段の間(奥)